

不登校

～エネルギー充電に必要な期間～

今月

は 保健師 石田 洋子 です

今では珍しいことではなくなっている「不登校（学校に行っていない状態）」。不登校の児童生徒数は北海道や全国においても年々増加してきています。

不登校となる原因やきっかけは様々ですが、本人にも周りの人にもわからないこともあります。「わがまま」「弱い人間」「親の育て方が悪い」などと言われることもありますが、それは違います。また、無理にでも学校に行かせなければならぬ、という考え方もあるかもしれませんが、必ずしも良い方法とは限りません。

「どうしてうちの子は学校に行かないんだろう」「どうして孫を学校に行かせないんだろう」と思っている方へ、子どもや孫の心情、そして子どもを支える母親や父親の心情を少しだけお伝えします。

《北海道の公立学校における調査》

	令和元年度		前年度との 差（人数）
	不登校児童生徒数	1000人当たり	
小学校	1,986人	8.3	+ 447人
中学校	5,558人	45.8	+ 677人
合 計	7,544人	21.0	+1,124人

※「令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（北海道）」



〈子どもの心情や身体症状〉

- 明日は行こうと思っても玄関で固まってしまう、朝になると吐き気がしたり頭痛がする、理由もないのに学校に行けない、恐怖さえ感じてしまう。
- 家にいると落ち着く、ゲームや好きなことをしているとリラックス出来る。でも、いつも学校に行けていない自分が情けなくなる、学校のことがいつも頭にある。
- 将来、自分はどうなるのか不安。



〈親の心情〉

- 自分の育て方が悪かった、自分が悪いんだ、この子は将来どうなってしまうんだろう。
- 孤独だな。
- 家では元気なんだから、学校に行ってほしい。いつになったら行けるようになるんだろう。
- 周りの目が気になる。なんと言われているんだろう。
- 学校に毎朝欠席の連絡もしたくない。

これらは、ほんの一例です。どの子どもどの親も日々不安や心配を抱えながら生活しています。決して甘やかしたりしているわけではないのです。

その子が安心できる場所でエネルギーを十分に充電する期間が必要になります。決して不登校の期間がマイナスな期間ではなく、子どもの成長が止まっていることはありません。

親も周りの人も焦る気持ちをグッと堪え、どうか見守ってください。そして話をとことん全部聞いてあげてほしいです。

〈大丈夫。あなたはひとりじゃない。〉

不登校を経験した者にしかわからないこと、理解しがたいことはたくさんあります。一緒に話をしませんか？色んな話がありますよ。